

岡山市子ども・子育て会議 平成28年度 第2回就学前教育・保育部会（議事録/要約）

日時：平成29年2月3日（金）午後3時00分～午後4時33分

場所：岡山市勤労者福祉センター 4階第1中会議室

開会 成立確認・・・委員12名出席（1名欠席）

議事 資料確認

傍聴許可（2名）

（1）平成29年度 保育所等の利用定員について

事務局 資料P 1～P 9について説明

部会長 平成29年度4月からの保育所の利用定員で報告を頂いた。

待機児童はどのぐらいになりそうか。

事務局 今年度、平成28年4月1日現在でいうと、待機児童729人というのは、報道等で皆さんご存じだ
と思うが、待機児童を含む未入園児童、保育所に利用を希望しても入れなかったお子さんは
1,343人いる。先ほどの説明の中で、この4月1日の利用申し込みが、現時点で約1万7,000人出
ている事で、利用定員でいうとそれに対して4月1日現在が1万5,259人で、単純に差し引きを
すると未入園児童が1,750人出る事になる。

ただ、保育所等は弾力化によって、定員を超えて受け入れをしている場合があるので、今の時
点でいうと未入園児童が、昨年と同等程度出るのではないか。

と言うのが、ここの9ページの表にもあるように、利用定員を今年度685人増やしたが、利用申
し込みが大体700人程度増えているので、相殺をされている。だから、未入園児童は、申し訳な
いが同等程度出ると予測をしている。

待機児童については、その内数になるが、実は今年度厚生労働省で待機児童の整理、見直しを
している。それがどちらの方向に行くのか、広く待機児童を拾う変更になるのか、もしくは待
機児童を減らす変更になるのか、まだ概要すら示されていない状態であるので、現状で待機児
童の見込みが729を超えるのか減るのかは、予測ができない状態である。

部会長 大体今年度と同じ状況になるのではないか。受け入れ枠を増やしても、それ以上の希望の方が増
える状況で、実質は余り変わらないのではないかという話だ。

事務局も一生懸命頑張っているんで、今後共よろしくお願ひしたい。

(2) 子ども・子育て支援新制度及び施設配置計画の概要について

事務局 資料P11～P18について説明

部会長 認定子ども園に関わる現状についての報告を頂いた。広範囲に渡っての説明なので、直接携っていたり、いろんな方々との関わりの中で、これ以外の情報を持っている委員もいるのではないかと。ざっくりばらんに質問、意見等あればお出し頂きたい。

委員 これより他の情報等はないが、このアンケート結果を見て感想を述べたい。

7ページでアンケート結果の報告。主な意見の上の段で、先生の負担が増えたのは、保護者目線から見た感想だが、きっと先生方が非常にバタバタしているのを見て、例えば何か相談に乗ってもらいたい、今日はちょっと聞きたい事があると思って声をかけようと思っても、先生がバタバタして声がかけれない状況ではないか。

それから、公立幼稚園で、幼稚園は皆同じだが、保護者・親が育つ時間をととても大事にしてきた。それは、こども園になっても引き続き頑張ってくれているが、参観日等の行事が減った、それから1号認定の園庭開放の回数が減ったのは、保護者・親達が子ども達の園での様子、育ちを見たり聞いたりしたい場が減ったという事だ。それが、その下の職員の感想の課題の中にある1号認定の子どもが一斉降園のため、保護者と話をする時間が取りにくいのは、1号認定の担任、今は幼稚園の教諭達がそこを務めている園が多いが、今まではしっかりと園庭開放の時間に保護者との連絡を取るようになっていた。それが、園庭開放の時間が減ったという事は、保護者との時間が取にくい。先生がバタバタしている事で、職員にも、また保護者にも連絡を取る時間が少ない。子ども達の育ち、親達の思いを聞き合う、話し合う時間が少なくなったのが、大きな課題ではないか。この辺りでは、現在のこども園の先生方、職員の先生方も非常に苦慮されているが、何とか解決できたらいいと感じている。

部会長 保護者のアンケート結果、そして職員のアンケート結果等についてお話を頂いた。

他の委員さん、いかがか。

委員 今回の幼稚園の方と同じように、幼稚園の教職員やこども園の保育教員から生の声を聞いているので、補足して報告する。

アンケートには、数の上では概ね良い意見がたくさん出ているが、実際現場で聞いている感じから、元幼稚園の保護者の方は、幼稚園の時代の方が先生の対応が丁寧であったと言う。これは、数が多い少ないではなくて、あってはならない事の一つである。

資料の12ページには、下の段であるが、子ども・子育て支援新制度での取り組みとして、質の高い幼児期の学校教育・保育を総合的に提供しますとあるので、これまでの幼稚園が大切に

てきた学校教育の部分を、質を落とす事があってはならないのが一つ前提である。

それを前提としたら、まずは勤務の体系から時間の確保が非常に難しい。職員の数が足りていない状況で無理なローテーションを組む事で、教材研究をする時間が足りない。あるいは、園外に出て自分の力量を高める研修を受ける時間がない。あるいは、次の日の保育の準備をする時間がない。あるいは、子ども達の状況を共通認識するだけの話し合いの時間が取れない。という事が、現場の声としては大きく上がっていて、これが教育力低下につながる大切な時間であるから、それを確保するための手立ては是非これから考えて頂かないといけない事だ。

それから、アンケートを保護者に取られていて、これから何年かこども園が定着していくにつれて、多分その良くないと思う意見は減ってくる。それは、こども園の状況に保護者も職員も慣れてくるのが1点と、それから幼稚園の時代の事を知らない保護者の方がこれからはどんどん増えてくるので、マイナスの意見は減ってくるが、ただ減ったからといって、それがすなわち質の高い教育が保障できていると言うのは、これは間違いだろう。その点留意して、これから検討なり議なり進めて頂きたい。

部会長 現場で働いておられる職員の方の生の声を聞いての発言を頂いた。

他の委員さん、いかがか。

委員 保育園から、保育士から、認定こども園で働く職員からも同様の話が出ている。

保育園で働く職員にとっては、労働時間と子どもと向き合う時間は変わらないが、連携の部分が当然増えてくるので、その分、負担は大きくなっている事が一つ言える。

それから、職員が不足している話もあったが、それも同様なので、そこは検討が要るか。

それと、友達関係が広がったのは、当然広がるが、認定こども園の最初の目玉として挙げられていた質の高い教育・保育は、アンケートの中には出てきていないと感じるので、そこら辺は認定こども園としてどうなのか。

それから、7ページのアンケート結果だが、主な意見の上は、ほとんどが幼稚園の保護者の方の意見ではないか。保育園からは、そう変わらない、子どもの実態は変わらないが、幼稚園の子の生活時間に合わせないといけない部分、お互いが出てくる。そういう中では、保育園は1日を通して大切な時間として、教育は本来時間で区切るものではなくて、幼児期の教育は1日を通して、その生活の中で育んでいくという理念が元々保育園にはあったので、そういう意味では、お昼に帰りの会をするのはどうなのか。

後もう一つ、今の岡山市の一番の課題は待機児童問題という事が、今日の冒頭に言われたが、この認定こども園の整備計画と合わせて、公立園の民営化と統廃合は一緒の計画であるが、待

機児が多い中で、本当にその政策が今の子どもの実態に合っているのかを検討し直した方が良いのではないかと。

それからもう一つは、保育料にも少し差があるのではないかと。14ページの利用料金で、認定こども園の2号・3号の保護者負担は、最高で5万5,700円。これは来年度少し見直されるだろうが、それを差し引いても1号認定の保護者の方は、最高でも8,300円なので、生活時間の違いはあるともいえども、給食費を払っても、たとえ一時預かりが1日500円のように、4時まで500円と書いてあったが、20日通っても1万円ぐらいで済むなら、保護者負担にも差があるのかと。

それと、最初の利用定員について1ページからの資料で意見もしなかったが、その辺で言うと、4ページを見てもらうと分かるが、新しい事業の計画が表されているが、ほとんどが小規模保育事業ではないのか。事業所内と小規模になって、その中には株式会社も結構入ってきているので、乳幼児の事故が一概には言えないが、起きる率は高くなっているというし、市がどこまで管理できるのかを少し心配している。それで、保育の質が保っていけるのかと、教育の事は言われているが保育の質はどうなるのか。

認可保育園と比べると確実に保育の環境は低くなっていくので、保育を提供する視点からするとどうなのか。

それと合わせて、先ほどもちょっと言ったが、アンケートの13ページを見ると、今利用している、利用していないに関わらず、お子さんの利用したい施設は何かで、認可保育所、幼稚園も認定こども園も入っている、その中に、認可保育所が一番多いと。小規模な保育施設が7.7%かと。小規模な保育施設と小規模保育事業は少し違うが、この表記がどうなのかと思う。今後、認可保育園の整備が必要なのではないかと思うし、公立の施設も視野に入れないと待機児の解消にはつなげていかないと。

部会長 いろんなご意見をまとめて事務局は記録して、後でまとめてほしい。

他の委員さんからいかがか。

委員 先ほど委員が言われたように、様々なデメリットがあるのは、私もそうかと。ただ、職員はこども園に向けて、中学校区の幼稚園の園長、公立幼稚園の園長、公立保育園の園長共々それに向けて情報交換したり、お互いの保育を学び合ったり、一緒に研究したりで、今までのこども園の話が出る前は、さほどそういうのは無かったのだが、そこに向けて今考えて、就学前教育を考えていこうという方向には向いていると解している。

なので、様々な問題はあるが、就学前を一緒に考えていこうという方向づけは、少しずつ職員の間でできているのではないかと。

それから、子どもの立場で考えた時に、資料の18ページにも子どもの立場、園児の生活関係で、互いに良い刺激を受け、遊びが豊かになった点では、幼稚園の人数が全員で30人を切るとか、少ないところでは本当に10何人とかで、その学区の中で一緒に幼・保で一緒に保育をしたり交流を持ったりと、そこで大人数と交わる事で刺激を受け合う、良い傾向も見られている。

ということで、少人数は少人数のよい、一人一人に目が届くという点もあるが、たくさん的人数で育ち合うというメリットもあると、学校区の中で一緒に交流する中で感じている。

それから、こども園の保護者の方とお話をした事はないが、例えば仕事を辞めないといけなくなった時、就労しないとまた続けて入れなくなる。なので、もう働かなくてもいいのに無理やり仕事を続けて保育園に入りたいとなってしまうのだが、もしこども園で1号として入れるならば、現状の保育園で、就労を辞めた時に1号に変えて、転園しなくて済んだケースも私は見ている。環境を変えなくてという点では、こども園に良い部分もある。

様々なメリット、デメリットがある。こども園になるのであれば、何か1つ、一步前進して一番子どもを中心に考えていかないといけないが、話し合いを重ねていき、より良い子ども達の健やかな成長には何が必要かは、職員、保護者も全て様々な方と話をしながら進めていかないといけない。

時間はかかるが、これからこども園に向かっていく事で、幼稚園の先生、保育園の先生達、そして保護者の方も一緒に考えていけたら。

部会長 メリット、デメリット両方あるが、前向きに進んでいきたいという話だ。

他の委員さん、いかがか。

委員 皆さんといろいろと被るが、認定こども園の1日の生活の流れを見て、私は上の息子が幼稚園に通っていたのだが、幼稚園ではすごい親がたくさん出るなどの機会があって、一緒に3年間過ごしたと私は思っているが、こども園になる事で、その2号の子ども達の環境から、そういう保護者が一緒に幼稚園で何かするとか、幼稚園がいろいろと変わってくるのではないか。その内容が今後のこども園ですごく気になる。

部会長 主に幼稚園の子どもさんと保護者の変化が大きい。

委員 普段よく関わる幼稚園のお母さん方は、子どもが小さい時に敢えて仕事をしないのは、たくさんの関わりを持ちたい意見が圧倒的に多いのと、地域の方とのつながり。私が子育てをしていた時よりも、今のお母さんは愛育委員でもたくさん声をかけてくれて、私なんか姑のようなおばちゃんと呼ばなかったのに、結構そのつながりを求めて下さる。それで、自分の育った地域からその地域の小学校に上げたい希望が大変多いが、今17・18ページを見ていると、私も気になったのが

保護者会とかPTA活動が中々一緒にできない事、それから帰っていく子どもを見て羨ましく思うことがある事、それから保護者と先生との話をする時間が短い事と、それから学区優先ではない事、その2ページにわたる意見が一番印象に残ったので、先ほど別の委員さんが言われたが、段々と不満の声は、幼稚園を知らない方から無くなって、出なくなってくるのではないかと。今大変この意見がよく入ってくるので、これからもこういう点で何か良い方法を探って頂きたい。今日はそういう希望を申し上げたい。

部会長 他の委員さん、いかがか。

委員 3点質問や意見等出したいが、まず1点目は先に他の委員さんが言われていた認定こども園での教育面とか、その方面に関して。

先の全体部会でも示されたアンケート。アンケートの12ページを見ると、幼稚園、保育園、認定こども園等に預ける理由が、第1の理由はもちろん現在就労している事が65%ぐらいあるが、その次の理由として子どもの教育や発達のために61.6%と、就労している理由に次いで非常に似通った数値になるぐらい高い。つまり幼稚園の保護者はもちろんだが、保育園に通われているお子さんの保護者にとっても、子ども達の就学前の教育や発達についての関心は非常に高い事が分かる。したがって、そういう面から、先ほどの先生方とのコミュニケーションと、先生方の研修等を受ける時間等の確保、そこには教職員の先生方だけの関心ではなく、非常に保護者としても自分達の子どもに対する教育という観点から関心が集まっているのが現状ではないか。

それから2つ目の点だが、保護者の中、特に幼稚園に通われている保護者の中に動揺が走っているのだが、1つは先ほど説明の中にあっただが、3歳に関しては抽選になりやすい。これはある程度人数、定員の問題もあるので仕方がないのは、我々保護者としても理解しているが、そこから先に進んで4歳・5歳になった時に、こちらも抽選になる不安感が、現在幼稚園の、1号認定の保護者で結構広がっている。というのが、1つは中山認定こども園だったか、50名の4歳定員のところに54名ぐらいの申込みがあった。それを今年度岡山市も4歳・5歳に関しては、小学校入学を控えている事を加味して頂き、全員入れたとは聞いているが、果たしてそれが本当に定員をどこまで超えても入れて頂けるのか。いずれこれが定員を超えた場合に、4歳・5歳に関しても抽選になる不安がある。

その一つの原因として、1号認定の定員を、空きがあった場合には2号認定へ流用する事が多分認められているが、その辺りで1号の定員数が確保されていても、結局は2号の待機児童解消のために流用されると、結局は1号の枠は事実上減ってしまっていて入れない不安感がかなりある。そうになると、一番最初の全体会で出た潜在的ニーズがどんどん、最初から2号になった方がいいと

いうところに増えていく。

先ほど利用料金の話もちよっと出たが、確かに応能負担、公平な応能負担は非常に重要な問題だが、現在1号認定の場合、やはり利用料がかなり安く入れるのが1つ、保護者の中ではメリットだ。ここの利用料が上がれば、当然料金的にも2号になったとしても、そんなに変わらないとなれば、ますます早期に子どもを預けたいニーズが増えてくる。その結果、供給も非常に増やさなければいけない事になりかねない。

それから3つ目の点として、これは資料等示されていないので分からないが、もう一つ1号認定の保護者から声が出ている点としては、公立のセーフティーネットの役割がどのくらい果たして頂けるのか、不安の声が上がっている。というのが、岡山市の障害を持たれたお子さんとか支援の必要なお子さんが多いと聞いているので、そういった方々の保護者から、今後本当に認定こども園になった時に、漏れなく受け入れて頂けるのか、抽選になるのか、あるいは抽選の時にどういう形で、学区優先もないが、そういう支援の必要なお子さんへの優先もないとなれば、自分達はどこに子どもを行かせたらいいのかという不安感が上がっている。その辺りの点について、今後いろいろと考えて頂けるだろうが、どういう方向でなるのかはちょっと気になっているところだ。

部会長 事務局は、今いろんな意見が出ているけれども、それを記録しておいてもらい、後で答えられる部分だけ答えて頂いて、あと答えられない部分は今後是非検討をして頂きたい。

他の委員さん、ございますか。

委員 保護者アンケートの結果の中に、通しページの17ページ。認定こども園になってよかったと思う理由の下から3つ目に、1号認定の降園時刻が毎日14時になった。これがよかった点に挙げられている。

前ページ、1日の生活の流れを見て頂けたら分かると思うが、1号認定の子は14時になっている。これは、確かこども園を最初に立ち上げる時に、保護者の意見でそうなったと聞いているが、教職員組合で聞かれる声では、2号認定の子どもは1時から午睡に入る。そこから1時間、降園までに時間がある。これが非常に長くて、お迎えを待っている時間が待つための時間になっていて、そこに教育的な意義は余り感じられない。

2号認定の子ども達が午睡、お昼寝をするのと同じように、1号認定の子ども達にも家に帰って午睡は必要であろうと。当然時間がずれば、それだけ1日の生活リズムは狂ってくる訳で、今はいろんな働き方があるので、パートで働いておられる保護者の方には、2時が都合が良いかも知れないが、教育的な意義とか配慮では、もう少し時間が早くないといけない意見が、我々の組

織の中では話し合われている。

これは一つの例で、スタートしているこども園の教育内容や形態、1日の生活の流れなどは、これで出来上がったものと考えてるのではなくて、より良いものにしていくための更なる検討を随時して頂きたい。

念のために立場をはっきりさせておくが、組織的にはこども園に反対ではない。但し、譲れないのは教育力を下げる事があっては絶対ならん。そこは皆さんにもお知りおき頂きたい。

部会長 その点についても、また後で事務局の考えを聞かせて頂きたい。

他の委員さん、いかがか。

委員 認定こども園で、今後の予定として少し大型のところが予定されているようだ。さっき中山の話が少し出ていたけど、抽選になってくるかの話があるが、今回資料の中に建部保育園とかが保育園から認定こども園になる事で、定員を増やしたりするけれども、大型の施設、大き過ぎる施設は、乳幼児が育つ施設としては適正な人数なのかを見ないといけない。

それで、大きくなると連携が増えてくるので、その分手間と言ったらおかしいが、話し合いの時間が多くなる。その分、子どもに関われるのか、施設内の意思疎通ができなくもなる。

それで、実際になっている園の声からは、やはり大き過ぎて、大きいクラスと小さいクラスの行き来が中々しにくくなっているのが現実という声も聞こえているので、その解消は必要だし、3歳児の受け入れが、仮に保育園の、今定員が一杯の保育園から3歳児の定員枠、1号の3歳児の定員を増やす訳だから、0・1・2歳がどうなるのか、きちんと見ておかないといけない。でないと、入れない子が出てきたり、3歳である意味3歳の壁が出てきたり、小規模でなくてもそういう事が出てきかねないし、先ほども言ったが、待機児童問題と絡めるとどうなのかを検討しないといけない。

部会長 他の委員さん、いかがか。

委員 これからお話しするのは、直接認定こども園に関する事ではないが、それに付随している事として聞いて頂きたい。

事務局の話にもあったとおり、これからどんどん認定こども園への移行が進んでいく。こども園開設までには、それまでに準備がたくさん必要である。それは1年、2年かけて準備をしているが、現場の職員から聞こえてくるのは、その準備園の大変さ。幼稚園はもうご承知のとおり小規模のところがたくさんある。中には園長がその場にはいなくて、小学校と兼務をしているところもある。職員が2人で回しているところもある。そういうところが認定こども園になっていく時には、保育園との打ち合わせ会議もあれば、設計図を見直すのも必要であるし、置

いてある備品をどこにどう置くか、園庭をどう活用していくか、様々な検討が必要である。

少人数で普段の園の運営をしていくのも一杯一杯で働いている職員が、準備のためにそういう他の力を使わなければいけないとなると、負担が大きくなるし、時間も必要になるので、その準備園での教育力低下を招いてしまう恐れがある。その辺も配慮をして、こども園の推進を進めていかないと、現在幼稚園に通っている保護者や子ども達には、提供される教育の質が落ちてしまう事にもなりかねないので、そこまでご配慮を頂きたい。

部会長 他の委員さん、いかがか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

部会長 はい。それでは、ここで事務局の考え、今思っている事を話して頂きたい。

事務局 まず、公としてどういった就学前教育をするのか。それは大きな命題だが、まず今ある資源を活用して永続的に、それも質の高い保育・教育を提供しなければならない。それは間違いない事なので、民営化という話も当然その過程にあるし、こども園というツールを使って等しく就学前教育をしようという、これは大きな国の流れでもあるので、その流れに沿って我々は市民サービスに努めていきたいと、この点は皆様と気持ちは一緒だと考えている。

小さい事だが、1つ、2つ、話をさせて頂くと、先ほど小規模保育、それから事業所内保育、こういったものに不安があるという指摘もあった。家庭的な保育が提供できる事で、こういった施設も我々は整備をしている。これらは認可施設である点を補足する。

それから、保育料の事も話してもらった。この4月に保育利用の大体8割の方が軽減になる保育料の見直しを行っている。その上で、授業料、幼稚園とのバランスも、今後遡上に上がってくるかも知れない。だが、この4月は保育料の見直しをした。

それから、1号の意見をいろいろ頂いた。職員さんの意見も頂いたが、職員、我々は当局という立場で、また現場で働いて下さっている保育士の先生、それから教員、幼稚園の先生。みんなの思いは一緒だと思うので、こども園だからダメではなくて、こども園になって、この点はよかったと言ってもらえるように、1つずつ課題を解決していきたい。大雑把ではあるが、方向性についてだけさせて頂いた。

事務局 幾つかご指摘頂いた点について、ご説明させて頂く。

まず、施設が大型化する、その懸念についてのご指摘があった。基本的にこども園に移行する場合は、その在園児がそのまま新しい移行するこども園に入って頂く形になる。その際、幼稚園と保育園を統合する園もある。そういった事で、施設の規模が大型化する事が生じてきている。

岡山市全体は、公立だけで全ての教育・保育ニーズを受け入れるのは中々難しく、私立保育園とか、先ほど申しました小規模保育園がエリアにできる事で、規模の適正化も図られていくと考えている。

また、大型園になる事で、そこで働かれている先生方の負担、コミュニケーションがしづらくなるご懸念もあった。設計段階から園の先生方とは協議をしながら、まず子どもの安全優先で設計をさせて頂いている。その際、先生方に図面を見て頂くご負担もあるので、これまで何園も開園して、我々もノウハウを蓄積しているので、我々がまずこういったプランはどうかという形でご提示できるものも幾つかある。そういった事をやりながら、移行する園の先生方の負担軽減に努めながら、適正という働きやすいこども園を整備していきたいと考えている。

あと民営化は、先ほど申したとおり、公立だけで全てを賄うというのは厳しい。財政的な面もあるし、効率的な運営を図っていかなければならない。人材の有効活用の面もある。そういったところから民営化の流れは、岡山市に限らず全国的にも進んでいるので、そういった状況も踏まえながら、岡山市も一足飛びにすぐ民営化という我々が押しつける形ではなくて、地域の方、保護者の方、もちろん職員の方もお話を伺いながら、適切に進めていきたいと考えている。

事務局

こども園に移行して進んでいる園、そしてまた準備園にも回らせて頂いたり、合同の会議を持つたりもしている。その中でいろいろな意見も頂いている。細かく1つずつは言いにくいところもあるが、保護者の方から園庭開放が減った、行事が減った意見も頂いている。ただ反面、ここは2号・3号の子ども達がお昼寝をしているから静かに通ろうねという声を、親御さんから子ども達にかけて通るといふ、互いを思いやる事も育ってきているし、各園で実態に応じた取り組みの仕方をしている。

資質向上の事だが、研修も充実をさせていくように、センターと協力しながら工夫をしている。皆さんに聞いて頂きたい研修は、複数回実施するよう工夫しているし、各園を回らせて頂いた時にも、職員の先生方から小学校や中学校と同じように、幼・小・中と同じ研修を受ける事で知らなかった事を知り、3未を知らなかった職員にとっては、乳児保育の研修に行つて、互いの研修に参加する事で勉強になるとの声を聞いている。

3上の教育を支える3未の教育・保育を目の当たりに感じて、一貫教育を意識した教育にも意識が向いている。

研修やその職員体制も互いにカバーをし合つて、工夫をして頂いている。

幼稚園であれ、保育園であれ、こども園であれ、子ども達と保護者のために最善の保育・教育

を考えている方向性は同じだし、先生方皆さんが一人一人の保護者や子ども達に寄り添って、保育・教育に取り組んでおられる姿に感銘を受けている。

今後もこれまでと同様に各園を回らせて頂いて、今年から合同の会議も持ったりして、先生方の思いを聞いたり、それから丁寧な説明に努めたりする事で、サポートに努めていきたい。今後共より良いものになっていくように、随時検討して参りたい。

事務局 今までの中で話に無かった部分について、私から2点ほど申し上げさせて頂く。

最終的などころまで申し上げられないのが残念だが、1点目が4歳とか5歳が抽選になるのではないかと。要は幼稚園のお子さんである。委員が冒頭、最初に例として出されたが、要は中山の本年度の話、中山の1号定員50人に対して、50人以上受けた形になっている。学区の特殊性というか、特に現在の4歳児が特に多い状況もあった訳だが、2号の定員枠を超えて2号の定員枠を1号が使うという、市内でも珍しい事が起きたが、将来的に絶対に抽選にならないとは言えず、当然今の段階で未来永劫の事をお約束できないのはあるが、そういう気持ちは今までどおりの方向で、持っていきたい。

それから、その次の障害児の方の受け入れの事。

現在幼稚園でも可能な限り受ける事でやっているが、保育園でも保育が可能な方は基本的にどの園でも受け入れる方向でやっている。ですから、障害児の保育の拠点園が何園かあって、そこが抽選になる事はあるけれども、基本的にはその他の一般園を含めて全園で保育が必要な方は受けていく方向でやらせて頂く。

それから、株式会社が保育園をという事だが、当然認可保育園、あるいは地域型の保育事業であっても、どこがするかは別として、岡山市できちんと指導、監査等を行っているので、その辺の指導はきちんとしていきたい。

部会長 時間が大分迫っているが、私もついこの間、中山認定こども園に、1度行かせて頂いた。その時の印象は、先生方で歩いている人は誰もいない、ほとんど駆け足で動いていらっしまった。職員室に行かせてもらっても、もう誰も座っている人がいなくて、みんな出払っている状況で、とにかく忙しい、大変だと。私も小学校現場は知っているが、本当に大変だと実感した。

本当に今皆様がおっしゃった意見は、全部実感としてよく理解できた。

皆様が出して頂いた意見を、今後、委員さんもおっしゃっていたが、岡山市の認定こども園を良くするためにどうしていくか、是非我々も一緒に検討させて頂いて、良いものにしていきたい。

皆さん言われたように、認定こども園というものをつくる、一番の原点は幼稚園と保育園の良

いところと一緒にして、質の高い教育・保育を行う事である。どちらかという、幼稚園におられた方は質が下がったのではないかと、むしろ今までの幼稚園の方が良かった思いを持っていらっしゃる。そういう方々も、保育園と一緒に良くなったと思えるものにしていかないといけない。そこが原点のはずである。そこが、幼稚園だった人も良くなったと。幾らか友達が増えたという良い意見もあったが、先生方が一生懸命やって下さって、次の日の準備もできるし、教材研究もできるし、相談もできるし、今までの幼稚園よりも保育園の先生と一緒にいろんな事を考える事で良くなったとならないといけない。

今後是非こういう見直しの機会は持たせて頂いて、みんなでより良いものにしていくようにできたら良い。

委員 この資料の中に、来年度から1つ私立幼稚園が、施設型給付の認定こども園になる。今就実さんが幼・保連携型になっていて、岡山はまだ2園だが、倉敷は確か6園か7園、変わられている。私は、教育に不安があるというのは聞いてない。その施設の内容にもよるが、幼稚園の子どもと保育園の子どもが一緒になって、例えばの話だが、幼稚園の時間帯の中に保育園の子どもと幼稚園の子どもが一緒に生活する訳なので、質の高い面では個人的に何も不安は持っていない。

一番不安なのは、遅い保育後の時間の仕事をなさる先生と幼稚園の仕事をなさる先生との共有の時間をいかに生み出すかによって、良くもなれば悪くもなる。そこを見直していければこの認定こども園はこれからの施設のあり方かと、私立幼稚園ではそう思っている。公立の場合はちょっとまた違うので、そこらは分からないが、私は質が下がるとは思っていないので、その点をちょっとつけ加えておく。

部会長 他の委員さん、いかがか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

部会長 それでは、予定していた時間が参りましたので、ここで区切らせて頂いて、最後のその他の項に行かせて頂きたい。

委員の皆様から何か。よろしいか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

閉会